

平成 29 年度 県立横須賀工業高等学校 学校評価報告書(実施結果)

視 点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3 月 22 日実施)	総合評価 (3 月 30 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	<p>1 工業高校として育成すべき人物像を見据え、基礎学力の充実を図るとともに、企業・大学等のニーズにも対応できるような教育課程の編成に努める。</p> <p>2 言語活動の活性化、協働的な学びを展開し、確かな学力を育成する。</p> <p>3 資格取得の機会拡大を図り、資格取得率を向上させる。</p>	<p>①産業構造の変化、科学技術の進歩等の情勢の変化に対応できる実践力のある工業人を育成するための具体的な方法を構築し、教育課程の再編成を行う。また自分の大切さとともに他の大切さを認めることができるような人権教育にも力を入れる。</p> <p>③生徒にとって将来に繋がる資格を精選し、個に応じたサポートに努める。</p>	<p>①・個に応じた指導および補習等により、工業人として必要な学力の定着と向上を図る。 ・企業や大学等のニーズにも対応可能な教育課程の編成について完成させる。 ・日々の実習を中心とした体験活動を通じて、他者との共感能力や想像力、人間関係調整力を育むことができるような指導を充実させる。 ・今年度も引き続き人権研修会やユニバーサルデザインへの取組を行い、生徒の人権意識を高める。</p> <p>③学級担任と連携し、生徒の進路選択を見据えた資格取得指導を充実させる。</p>	<p>①・工業高校として育成すべき人物像」について共通認識を持って、基礎学力及び発展的学力の向上について具体的に課題を解決するための取り組みが行えたか。 ・具体的な教育課程を編成することができたか。 ・人権教育の研修会やユニバーサルデザインへの取組を通して、生徒の人権意識の向上について成果が上がったか。(アンケート調査)</p> <p>③個々の生徒にとって必要な資格・検定・講習の内容について正確な情報を提供するとともに、結果として合格率の向上が図れたか。</p>	<p>①・本来獲得すべき学力である 1 年生 1 学期の基礎教科全科を中心に、放課後及び夏季休業中を使い補習を行った。昨年度よりさらに多くの講座で基礎学力や資格取得や進学を目指す補習も行うことができた。さらに、普通科の英語検定試験等へのチャレンジも増加し、放課後の補習も実施した結果、2 級 1 名・準 2 級 1 名・3 級 4 名が合格した。 ・生徒のニーズや教育目標に合致した教育課程を編成することができた。 ・人権教育研究推進 2 年目として生徒によるユニバーサルデザインの具体的な成果物を完成させ、様々な場での発表を行うことにより、生徒に達成感を持たせながらプレゼンテーション能力の育成を図ることができた。また、全校生徒及び教職員に 4 回の人権講演会や公害で恵の研修会を実施し、人権への意識を向上させることができた。</p> <p>③「在学中に取得可能な資格一覧」を作成し年度始めに全校生徒・保護者に対して情報提供した。工業科のみならず普通科の協力も得ながら、生徒が積極的に資格取得に取組める環境整備に努めた結果、昨年度より危険物取扱者試験や 1 年生の第 2 種電気工事士の合格者が増えた。</p>	<p>①・きめ細かい学習指導を行ったが、通常の集団授業では集中しきれず学習への取り組みをあきらめる生徒がいた。1 対 1 での教を望む声は多く聞かれたが、それへの対応には限界がありやり方も含めて考えていくべき課題である。また各教科の授業指導内容を受け、ICT 活用の機器整備を行い、さらなる授業内容の充実を図るための工夫や、教科間の情報共有が昨年度に続き大きな課題である。今後は異校種を含め他校の研究授業等への参加を促進し、その内容を共有できる機会を設けるよう図っていく。 ・生徒の多様な進路ニーズに合わせた教育課程を常に研究していく必要がある。 ・今後も人権に対する更なる意識の向上と、それに伴うボランティア活動等の具体的行動への取り組みを促進する。</p> <p>③受験希望の生徒は多いものの、校内での補習授業を設定しても、参加しない生徒や自発的に勉強しない生徒も多いため、結果的に合格率が向上しない資格試験もある。今後は、生徒たちに資格取得の必要性や難しさを理解させしっかりと目的を持って真剣に受験させる指導が必要である。</p>	<p>①・県工生の基礎学力を、どのレベルで考えるか。学習意欲があっても、基礎学力で躓いてしまう。特に数学で苦労するのではないか。先生方は生徒がわかる授業づくりに取り組んでおられると思うが、もう一步踏み出して欲しい。 ・夏季休業等を活用し、学力差の解消・意識の高い生徒のニーズ・資格取得に係る補習等様々なことを熱心に行い、結果につながっている。引き続き取り組んでいただきたい。 ・立派な工業人育成の根底には、他者への配慮や思いやり等ができる人間教育が必要と考える。その観点から、本校が人権教育研究推進校として 2 年間様々な取組を行い、生徒の意識が向上したことは高く評価できる。今後は取組んだ内容によって、生徒にどのような変容が見られたかを、事例等を踏まえて評価し、今後の活動に生かしてほしい。</p> <p>③・中学生は、資格が取得できる・就職できる学校として期待している。企業は県工生の資格取得を歓迎している。企業で 3 年位勤務した卒業生で資格を活かしていれば、その卒業生から在校生に話をしてもらってはどうか。 ・生徒が自己 PR できるようになるのが重要。生徒指導にも関わってくる。生徒が資格取得をしても自己 PR できないと企業に採用されないなど生徒に損失を与えてしまう。</p>	<p>①・来年度 1 年生より、英語・数学の授業を多展開で開講することによりきめ細やかな指導ができると考えている。 ・基礎力診断テストを活用し、データの抽出→分析→授業改善とつなげている。 ・基礎計算能力や文章解読能力の向上に向けた取り組みは、各教科を通じて行われた。工業科目を中心に授業開始部分で毎回四則の計算練習や 1 分間スピーチを行って能力向上を図った。 ・社会科や国語科も同様に漢字の書き取りや朗読を行ったり、時事問題への自分なりのコメントを発表したりした。これらの具体的な取組によって、生徒にどのような変容が見られたかを、事例等を踏まえて評価し、今後の活動に生かしてほしい。</p> <p>③生徒が受講可能な特別教育講習を本校で開催することにより、生徒の講習費用および交通費等を軽減でき、取得率も向上した。それに対して、国家試験等の合格率の向上は鈍い。</p>	<p>①・こちら側の指導方法にしっかりと答えられる生徒にとっては、当初の目標を達成できる成果が出ていると思われるが、そこにたどり着かない生徒をどう引き上げるかが課題となった。これに対しては時間をかけて 1 対 1 で丁寧に対応していく方法しかとれない。したがって各科を飛び越えて学校全体として段階的なドリルの実施等を授業の中に取り入れていく必要があると考える。 ・人権教育研究の指定は終わったが、今後も教育活動全般で人権を意識した取組を実施するなど、引き続き人権教育を推進していく。</p> <p>③生徒に資格取得の意味と活用について十分理解させる機会を設けるとともに、意欲が向上するような計画的な補習授業の展開に努める。</p>
2	<p>1 基本的な生活習慣を定着させ、生徒が自ら社会のルールやマナーの意味を考える指導の充実を図る。</p> <p>2 生徒主体の生徒会活動・行事の運営を推進する。</p> <p>3 潜在的ニーズにも対応可能な教育相談体制の確立を図る。</p>	<p>① 社会性の基礎となる生活習慣を生徒に定着させ、自ら率先して良識ある行動ができるような人材育成に努める。また、交通安全指導を強化し、生徒が交通事故に遭わないような活動を継続する。</p> <p>③支援会議、SC、SSW の活用を活性化させる。</p>	<p>①生徒指導方針を明確にして、全職員が温度差のない指導が実践できるような環境整備に努める。また、交通安全指導を徹底し、生徒が交通事故に遭わないような活動を継続する。</p> <p>③ケース会議の開催、SC、SSW の活用を検討し、積極的に働きかける。</p>	<p>①・落ち着いた生活環境の整備を進めることにより、生徒指導対象生徒が減少したか。また、交通安全指導の徹底により、交通事故件数が減少したか。</p> <p>③・潜在的ニーズの洗い出し、問題に対する事前の対応ができたか。 ・ケース会議は予防的な観点で開催できたか。 ・SC、SSW 利用率は昨年度以上であったか。</p>	<p>①・1 学期中盤から生徒の落ち着いた状況が見られ、特に 1 年生の生徒指導案件が増加した。全教員が授業中のクラスや校内の見回りを行った。 ・交通安全教育については前年度の交通事故件数の増加を踏まえ 1 年生に対して、スクリーン式交通安全教室を取入れ、交通事故の恐ろしさを実感させた。</p> <p>③SOS チェックリストの運営により、3 名 3 回のケース会議を実施した。SC および SSW については、教職員からの相談も含めて 30 件の案件の調整を行った。その中でも重要な案件は迅速に担任、養護教諭、教育相談コーディネーターと連携し組織的な支援を行った。</p>	<p>①・生徒に対して生活習慣の定着とルール厳守の重要性を学校全体、職員ひとり一人が意識して、温度差なく指導できる体制を整える必要がある。 ・生徒が重傷を負うような交通事故件数は減少したが、軽微な交通事故は数件あるのが現状である。次年度以降も交通安全教育が生徒に深く浸透するような内容の工夫が必要である。</p> <p>③SC 利用件数が昨年度の 42 件より今年度は 30 件に減少した。原因の中に潜在的ニーズがあるかどうかを洗い出してみる必要がある。</p>	<p>①・1 年生は中学からの変化に戸惑うことも多く、高校生としての意識や行動に不安定な要素があり、問題行動を起こしやすい状況にある。そのため入学当初に十分な時間をかけ、学校の教育方針や工業人としての心構え、卒業後の見通しのほか、高校生としての生活の仕方々々を徹底して指導することが重要と考える。 ・専門学校では一貫性保持のため一人の教員が同じ説明をする。また入学直後に SNS 等の使い方について説明する。 ・交通事故、特に自転車通学に注意。</p> <p>③最近の生徒はメンタル面での課題を抱えていることが多い。ケース会議は大事なこと、中学校でも解決できないまま進学していく生徒がいる。小学校でもケース会議が増えている。人間関係・家庭環境等が多い。小学校と中学校はカウンセラーが同じで継続的なカウンセリングができるが、高校は途切れてしまう。</p>	<p>①・交通事故件数が減少しない本校において、実際の事故を再現したスケアードストレイト式交通安全教室を開催し、生徒が交通安全に対する意識を高める取組を実施した。 ・頭髪指導については、担任・学年をはじめとする継続的な指導により、一定の指導効果があったと考えられる。</p> <p>③前年度に比べて年間 4 回以上利用する生徒が大幅に減り、延べ人数で約半減となった。利用生徒は落ち着いていると考えられるが、それ以外の生徒のニーズが潜在化している可能性がある。</p>	<p>①生徒の校内外におけるルール・マナーについては、完全に徹底できたわけではない。一部の生徒における服装の乱れがある。また、携帯電話・スマートフォンの使用については具体的な指導方針を検討する。</p> <p>③従来の SC 利用の広報、チェックリスト運用、成績会議でのフォローを続けるとともに、教育相談コーディネータの学年配置、生徒や教職員に対する SC の紹介・活動のアピールにより、相談しやすい環境整備を進める。</p>

3	<p>進路指導・支援</p>	<p>1 社会的・職業的自立のための力を育成する計画的なキャリア教育を実践する。</p> <p>2 全員参加によるインターンシップのさらなる充実を図るとともに、進路選択に幅広く活用できる進路データベースを構築する。</p>	<p>①基礎力診断テストを活用したキャリア教育の推進と、キャリア教育実践プログラムに基づいた進路行事の実施と精選を行う。また、昨年度作成した、企業別進路実績データを活用とした進路支援の実践と充実を図る。</p> <p>②就業体験活動を通して、働くことの意味を理解させるとともに、他者とのコミュニケーションが円滑に行えるような人材育成を支援する。</p>	<p>①・テスト結果の分析の精度を上げるとともに、生徒へのフィードバックを支援する。</p> <p>・キャリア教育実践プログラムと進路行事の目標の合致を精査する。</p> <p>・進路実績データを活用した進路支援を実施するとともに、他のテストの連結を図る。</p> <p>②インターンシップ事前指導を徹底し、社会人としてのルールを学習させ、進路選択の動機づけとなるような充実した体験ができるような支援を行う。</p>	<p>①・事前学習の徹底、当日のマークミスが起らない仕掛けをつくれたか。</p> <p>・進路行事の精選を行えたか。</p> <p>・他のテストの結果と進路実績データの連結を図り、そのデータを活用した有意義な指導ができたか。</p> <p>②・学校全体の取り組みとして、円滑な運営ができたか。</p> <p>・生徒感想文等から、生徒にとって有意義な体験となったか。また、事業所アンケートの結果から、協力事業所の反応はどうかであったか。</p>	<p>①・事前学習については、数学・国語で提出状況を評価に加えるなどし、事前学習の取組に改善が見られた。</p> <p>マークミスについては、担任・副担任のダブルチェックで概ね防ぐことができた。結果については教員対象に5月と11月に、生徒対象は10月に業者を招いて詳細なデータをもとに説明会を開催し、活用方法の支援を行った。</p> <p>・過去の就職者の在学中の成績を参考に進路先を決定する指導については、概ね定着しつつある。また、基礎力診断テストの結果と、現3年生の成績及び進路との相関関係の分析を行った。</p> <p>②昨年度に続き、67事業所の協力により、2年生全員に対して有意義な体験が実施できた。また、工業に特化した事業所の開拓を継続した。事業所側の意見として、生徒の態度は概ね良好であったが、一部の事業所からは、生徒の意識を持たせるため、学校側の指導徹底についての要望があった。</p>	<p>①・基礎力診断テストの取組については、生徒・教員個々に温度差がかなりある。今一度、目的や今後の方針について意思統一を図りたい。</p> <p>・基礎力診断テスト結果の分析と成績・進路との相関関係は、今後もデータの積み上げを継続しより精度を増す必要がある。</p> <p>②インターンシップを実施するにあたり、生徒への事前指導を徹底する。事前説明会では、先輩の体験談を盛り込むなど、就業体験の意義と心構えをしっかりと指導できる体制と指導内容を工夫する。</p>	<p>①専門学校では入学時にキャリアプランを立てさせ、1年後に検証させる。</p> <p>②・インターンシップはとてもよいと思う。社会に出て働くことの厳しさや楽しさを現実として捉えることは、生徒の学習意欲や生活の仕方等に大いに役立つと考える。その意味からも本校のインターンシップは、質・量とも大変充実しており高く評価できる。今後は、高校・事業所とともに、継続によるマンネリ化が生じないよう、連携を密に行い内容の更なる充実に努めてもらいたい。</p> <p>・インターンシップを通してプレゼンテーション能力については着実に向上している。</p>	<p>①基礎力診断テストの取組については、生徒・教員個々に温度差がかなりあるが、事前にトライアルを実施してから診断テストを行うため、生徒には学習する習慣が身についた。</p> <p>②今年度も67社の協力により、2学年全員を対象にインターンシップが実施できた。体験後の感想文等により、生徒にとって有意義な体験となったことが言える。一方で、全員実施のデメリットとして、意識が希薄な生徒が居るのも現実である。</p> <p>②1年生から将来を見据えたキャリア教育を計画的に推進し、インターンシップの意義を理解させるとともに、3年次での進路選択の一助となるような機会とする。また、プレゼンテーション能力の向上に向けた講座の開催を継続的に実施する。課題である工業に特化した事業所開拓についても積極的に推進する。</p>
4	<p>地域等との協働</p>	<p>保護者や地域との連携を推進することにより生徒のコミュニケーション能力の向上を図り、「生きる力」と豊かな社会性を育成する。</p>	<p>①地域密着型・学校の特色と課題に応じたコミュニケーション能力の向上を図る。有効な取組を行う。</p> <p>②ホームページの充実と迅速な掲載を通して、教育活動の発信を活性化させる。</p>	<p>①現状と課題の整理を行い、学校目標を共有することで学校運営協議会が有効に機能するよう委員の方たちと協議を行う。</p> <p>②ホームページ掲載の仕組みを整備し、迅速に発信することができたか。</p>	<p>①学校運営協議会を3回以上実施し、十分な協議が行えたか。</p> <p>②ホームページの更新の頻度・閲覧カウンターの増加があったか。</p>	<p>①学年単位による地域清掃、ぎんなん祭り、近隣小学校との交流授業など積極的な参加ができた。</p> <p>②ホームページ掲載の仕組みを整備し、部活動の結果や学校行事・学年行事等のお知らせを迅速に発信することができた。</p>	<p>①学年単位による地域清掃、ぎんなん祭り、近隣小学校との交流授業など積極的な参加をした。</p> <p>②さらにホームページ掲載の仕組みを整備し、迅速に発信する。</p>	<p>①ぎんなん祭りや交流授業・地域清掃などの取り組みは、地域や近隣学校からも高く評価され、良い状況が生まれていると考えます。</p> <p>②PTAより、ホームページの充実をお願いしたい。配布プリントが手元に届かない。PRが大切、地域に入り込んで生徒が作ったものをアピールするなどして、工業高校についてもっと理解が深まるようにして欲しい。</p>	<p>①学年単位による地域清掃、ぎんなん祭り、近隣小学校との交流授業など積極的な参加が地域や近隣学校からも高く評価され、良い状況が生まれている。</p> <p>②生徒に配布したプリントで重要と思われるものをダウンロードできるようにして、保護者の手元に届かない事がないようホームページの充実を図った。</p>
5	<p>学校管理 学校運営</p>	<p>学校評価システムにおけるPDCAサイクルの「見える化」を実践し、安全・安心な教育環境の整備と事故防止に努める。</p>	<p>防災に関する意識の向上と安全で安心できる教育環境を確立する。</p>	<p>・防災体制の見直し、地域・保護者と連携した防災訓練等を通して、生徒の防災に関する意識の向上を図る。</p>	<p>・生徒の防災に関する意識の向上が図れたか。(アンケート調査等)</p>	<p>・津波に対しての地域高台への避難に向けてさらに準備を進める。</p> <p>・生徒主体の防災に関する取組を考え、防災に関する意識の向上を図る。</p> <p>・日頃から日常生活の中で防災を意識する取組を考え防災に関する意識の向上を図る。</p>	<p>・全校生徒を対象にして、住んでいる地域別にグループをつくり、DIG訓練を実施した。</p> <p>・近隣の小中学校や地域の方の意見を参考にして、津波に対して、地域の高台への非難に向けて準備した。地域清掃や美化委員、通常清掃などで、学校周辺を歩き地域の危険箇所を確認しながら、清掃活動を行い、高台への避難経路を確認した。</p> <p>・防災アンケートを実施し、日常生活で防災について意識している生徒の割合は約52%、防災訓練を行うことにより防災への意識が向上した生徒の割合は91%であった。</p>	<p>・近隣の小・中学校や地域の方々と連携した訓練はとても良い取り組みである。今後はその中で、高校生としてできる取り組みを生徒自らが考え、実践できるようにすることも必要ではないか。</p> <p>・DIG訓練は、地域の方がいるとよりよい情報が得られると思う。</p> <p>・津波は長い時間続くので、校舎の屋上ではなく、高台の方がよい。</p> <p>・地域的に学校周辺は危険が多い。防災を地域と一緒に訓練する等地域にもっと入り込んで欲しい。</p> <p>・小・中・高と合同で訓練できれば良いが、行政の壁がある。昔は県と地域でやっていた。</p> <p>・ツイッター、LINEを活用した防災を進められないか。</p>	<p>・全校生徒が地域別に分かれて災害図上訓練(DIG)を行った。学校周辺の危険箇所を再認識することができ、防災への意識を高めることができた。</p> <p>・災害時避難者対応マニュアルを作成し、避難所協力に向けて体制を整備した。</p> <p>・災害時に工業高校の生徒だからできることを考え、地域と連携した取組を実施する。</p> <p>・委員会を中心に地域に出かけ、近隣の小中学校、町内会等と連携した防災訓練の実施を検討する。</p> <p>・HR等を利用し、日常生活での防災の意識を高める取組を実施する。</p>